

科学の再興のための研究力強化と研究評価

令和8年3月 27 日

総合科学技術・イノベーション会議 議員

光石 衛

第7期科学技術・イノベーション基本計画の冒頭にも記載されている日本の「研究力」は重要な課題であり、日本学術会議においても、研究力を強化するために、昨年 11 月に「研究力強化」及び、関係の深い「研究評価」に関する2つの提言を発出しています。基本計画を基に政策を展開していく際には、これらの学術コミュニティからのボトムアップによる議論の結果をぜひ参考にしていただきたいと思います。

具体的には、研究力強化に関する提言では、研究職の魅力を回復し、我が国の学術を支える持続的な研究エコシステムの再生を目指す上で分野を横断して共通する課題として、

- ・ 研究者の雇用問題の解決
- ・ 財政基盤の再構築
- ・ 研究時間の確保
- ・ 博士人材育成の推進

を取り上げ、

- ・ 基盤的資金の拡充
- ・ 運営費交付金と競争的資金のバランスのモニタリング
- ・ 過剰管理の削減

などの改善方策を提案しています。

また、研究評価に関する提言では、

- ・ 定量的指標偏重
- ・ 評価の質の低下による形骸化
- ・ 社会実装との乖離

といった日本の研究評価制度が抱える構造的課題を克服するため、

- ・ ナラティブ CV の導入
- ・ ピアレビューの高度化
- ・ 社会的インパクトとエンゲージメントの評価

など、研究文化の変革と研究活動の質を高めるための抜本的な改革を提案しています。